

第3回 鞍手町役場新庁舎建設に関する住民説明会 概要

1. 開催日 平成30年12月8日（土）

2. 開催時間 開会 午後7時30分
閉会 午後9時20分

3. 開催場所 古月小学校 体育館

4. 出席者 22人

5. 次第

1) 開会

- ・司会より開会
- ・資料の確認

2) 町長あいさつ

- ・町長よりあいさつ
- ・町長から考え方等説明

3) これまでの経過について

- ・事務局から【資料②】これまでの経過について説明

4) 鞍手町庁舎等建設基本計画（概要版）の説明

- ・事務局から【資料③】鞍手町庁舎等建設基本計画概要版について説明

5) 基本計画の見直しにあたって（町長の考え方）

- ・次第2の中で説明

6) 質疑応答、意見交換

- ・回答のうち、特段の記載がないものは町長が回答

質問者①

- ・町長は公約で建設計画を見直すと言っていたが、先ほどの役場の説明は日程の遅れということに留まっている。結局、見直しはあるのか。
- ・計画見直しの結果、建て替えではなく耐震工事のみということもあるか。
- ・くらて病院の建替え計画は決定か。
- ・町長と役場とで意見が異なるのではないか。

①への回答

- ・現在の建設計画、そして日程の遅れ、この二点の周知・説明がこの住民説明会の主旨。
- ・現在の建設計画の説明を聞いた上で出た意見を見直しの参考にしたい。

- ・建設計画は現在も有効だが、財源上、また公約どおり福祉センターを残すという点でも見直しが必要。
- ・小牧墓所の移転の予算が承認されたので、今のところ当初の計画どおりに進めている。墓所跡地は、見直しの結果、別に活用する可能性もある。
- ・くらて病院については来年に説明会を開く。
- ・(事務局) 町長と役場とで意見に相違はない。

質問者②

- ・小牧墓所の跡地に庁舎ができないかもしれないのに、なぜ移転の予算を通したのか。財源がないのに移転の補償金は出すのか。
- ・庁舎が建つと聞いたから先祖代々の墓の移転を了承した。庁舎が来ないなら反対する。という墓の管理者もいるのではないか。また代案がないので、墓所跡地の売却の可能性を拭えない。
- ・計画を見直すと繰り返すだけで、移転地の候補や規模について提示がない。代案がないのはなぜか。1回目の住民説明会にも出席したが、今回は次第の順序が変わっている。主旨をぼかしているように見え、不信感を覚える。
- ・くらて病院の建替計画の方針変更に際し、説明がなく新聞で知った。1回目の説明会で質問したが、その時も根拠が示されなかった。「話し合いの結果、元の計画が最善だと判断した」との回答だったが、その説明では住民は分からない。
- ・1回目の説明会で、町長から、委員会を設置して住民から100人規模で意見を募ると聞いたが、いまさら何を見直すのか。

②への回答

- ・庁舎だけでなく付帯設備などへ庁舎と同規模の支出が発生する。これも見直したい。
- ・小牧墓所は既に移転の話が進んでいた。また、もし他の地に庁舎を建設したとしても、町の一等地として墓所跡地を有効活用したい。補償金は無駄ではないと考える。
- ・墓所の管理組合の人と話し合いの結果、了承された。既に別に墓所管理者に対する説明会を開き、庁舎が建たない可能性について説明をしている。庁舎が来ないなら反対という方がいるということは聞いている。
- ・これまで住民説明会とは、決定後の説明が多かった。行政主体から住民主体に変えたい。みんなのまちづくり委員会を設置し、改めて住民へ問いかけ、見直したい。これまでの手法と異なるので違和感を覚えるだろうが、選挙によって受け入れられたと考えている。

質問者③

- ・自分は検討委員として8回も庁舎等建設について話し合った。当時の答申をどう考えているのか。委員に対し、説明なり謝罪なりはあったか。自分たちは現在の計画がベストだと考える。
- ・建設費が答申時の35億円から、36.1億円に増えたのはなぜか。増額分は小牧墓所にかける経費か。
- ・石炭資料展示場などの移転費を含んでいるか。
- ・野球場を移設できないか。当時、南中という話も出たが、町の中心から遠い。

③への回答

- ・検討委員には敬意を表し、尊重したい。住民アンケートやパブコメに協力していただいた方にも感謝している。
- ・計画どおりの日程で遂行できないので、見直しは必要。
- ・(事務局) 検討当初は 35 億円程度という話をしたかもしれないが、財源の検討を行う際には 36.1 億円という資料で検討いただいた。答申時も 36.1 億円。答申後にも数字を変更していない。この額は、小牧墓所や石炭資料展示場の移転などすべてを含んでいる。
- ・野球場の話は、くらて病院移転の付帯意見と思われる。病院の住民説明会で触れたい。

質問者④

- ・主な財源は過疎債と聞くが、返済など大丈夫か。
- ・施設のランニングコストも気がかり。
- ・くらの郷は売れる目途があったのか。
- ・防災面の強化とは、主に行政機能の強化という意味で合っているか。場所がいいと思うが、遠賀川に近い点が心配。
- ・古月地区の避難所は、古月小だと難しい。

④への回答

- ・(事務局) 地方債のシミュレーションとして、平成 29～38 年度のグラフを作成した。試算の結果、返済額は一旦上がるが、徐々に減少する見込みで問題ないと判断した。
- ・(事務局) くらの郷の福祉棟には、現在、くらてブロックチェーンビレッジが賃貸契約している。契約時の記者会見では、3 年間賃貸の後、購入したいと言っていた。役場側としては、福祉棟売却により得た資金を庁舎等建設の財源にと考えていた。手順として最終的には公売にかけるとは必要があるが、売却計画があったのは事実。
- ・(事務局) 国交省作成のハザードマップによると、遠賀川が氾濫した場合、周辺は浸かるが、庁舎は高台にあるため水没しない。
- ・(事務局) 古月地区の避難所は、地域によって古月小学校と豊翔館に分かれるので、確認してほしい。

質問者⑤

- ・住民の意見を聞くのはいいとして、町長の意見はどうか。

⑤への回答

- ・自分の意見もあるが、まずは住民の意見を聞きたい。住民主体と考えているし、自分が意見を述べることで影響が出るのを避けたい。

質問者⑥

- ・回答不要。町長が変われば政策も変わる。庁舎等建設検討委員の思いもわかるが、トップが変更になれば手法が変わるのは当然。
- ・前町長には裏切られた思い。
- ・住民も町政へ関心を示すべき。議員には建設的な意見をお願いしたい。
- ・役場は計画ありきで進めるのはやめてほしい。

質問者⑦

- ・庁舎等建設検討委員として参加した。当時、住民にアンケートを取って中央公民館の周辺となったし、計画もそのようにした。他の候補地も検討したし、様々な意見が出た。その結果として、最終答申に至った。
- ・住民の意見を聞いて建設計画を見直すのであれば、マスタープラン等を見直すのが先ではないか。議員時代に重んじていた手順と異なる。
- ・今の建設計画がどうなるのか、不透明で不安を覚える。日程変更なのか、白紙に戻すのか、はっきりしてほしい。
- ・町長と、この計画策定に携わった職員の気持ちを聞かせてほしい。

⑦への回答

- ・平成 31 年度に総合計画を見直す予定。この建設計画と同時に見直すことになる。両者で整合性を取りたいので、今は意見を集める時期と考えている。
- ・（事務局）職員は全体の奉仕者。町長は選挙によって選出されており、職員は法令に反しない限り、上司の命に従うものとする。

質問者⑦－２

- ・町長は職員の意見を胸に刻んでほしい。
- ・検討委員会や議会へきちんと説明してほしい。議員も町民の代表者。
- ・日程や財源の見直しも、庁舎等建設計画の見直しと言える。大きな選択肢の一つだと考えるし、本心ではこちらを希望する。
- ・小牧墓所の扱いについては疑義がある。

質問者⑧

- ・平成 32 年度末までに庁舎が完成しないと財源は出ないのか。
- ・計画の遂行が遅れているが必要な財源の確保はできるのか。

⑧への回答

- ・（事務局）平成 32 年度末までに完成しないと、今想定している有利な地方債は出ない。
- ・（事務局）過疎債は昭和 40 年代から繰り返し延長されている制度なので、今後も延長の可能性があると考えている。

7) 閉会

- ・司会より閉会